

新医師紹介

4月から赴任した
3人の医師を紹介
します。



仲村 武裕 医師
なむら たけひろ

(内科、KDH担当医師)

琉大病院第2内科から派遣の仲村武裕です。糖尿病と内分泌疾患（ホルモンの異常）が専門です。久米島デジタルヘルスプロジェクトも担当なので皆さんの健康状態をデジタル技術で分析し改善していくという目標に向けて日々努力していきます。A-ya-O-Tはまだ発展途上な技術ですが、好きなものを食べてそれでも100歳長寿が達成できる、夢のような健康管理を手助けできる可能性がありません。その可能性にチャレンジしている久米島の皆さんを誇りに思いつつ頑張ります。

上柴 二の み 医師 (内科)
うしばい みのみ

久米島の皆様、はじめまし

て。出身は東京ですが、初期研修の2年間を育てて頂いた沖縄県に戻る事ができ、とても嬉しいです。子どもからお年寄りまで国籍問わず、患者さんとそのご家族に笑顔の時間が延びるよう、少しでもお役に立てたらと思います。気になる事はどんな事でもご相談ください！偶然5年前から家族が久米島モズクの大ファインで喜んでいきます(笑)趣味は音楽で太鼓が好きです。1年間、どうぞよろしくお願致します。

上原 周悟 医師 (内科)
うえはら しゅうご

久米島町の皆様、初めまして。平成31年4月より公立久米島病院に赴任いたしました上原周悟と申します。勉強のため、宮城県の塩釜市や女川町、神奈川県横須賀市の病院・診療所を転々としておりました。久米島では主に内科を担当することとなりますので、どうぞよろしくお願いたします。本籍地は本島の南城市大里であり、幼少期はうるま市(旧具志川市)や宮古島を、

こちらを転々としておりました。琉球大学医学部在学中の10年程前には一度久米島病院を訪れており、また来る事ができて大変嬉しく思っております。趣味はサッカーですが、久米島では釣りもしてみたいと考えております。ビール・泡盛も大好きです。健康に支障を来さない程度にお付き合ひしましょう！

お父さんが子どもと

うまく関わるための3つのポイント

小児科 渡邊 幸



お父さんが育児に参加すると沢山のいいことがある一方で、育児に参加しようとする、なかなかうまくいかないこともあります。お父さんがお子さんと関わる時のポイントについてご紹介したいと思います。

①夫婦間でしつけの「大枠」を決めておく

父親と母親は役割が違うので接し方も違って当然。お互いの接し方を尊重する姿勢が大切です。その上で、しかるポイントや家庭内のルールなどの大枠は夫婦間で話し合っ決めておきましょう。夫婦ともにイライラすることも少なくなり、何より子どもが過ごしやすいようになります。

②スキンシップで愛情ホルモンを増やす

母親は授乳の時に脳内に愛情ホルモン(オキシトシン)が出るので、親子の愛着が自然につくられていきます。一方父親は子どもと「触れ合う」ことで「愛情ホルモン」が放出されます。より小さい時から子どもと触れ合っていると父と子の間の愛着が深まります。父親には母にはできないような遊び方ができるので、子どもはお父さんとの体を使った遊びは大好きです。なんでもいいのでお父さんとお子さんが楽しいと思えるじゃれつき遊びを沢山しましょう。

③子ども心を思い出す

お父さんが子どもの頃を振り返ってみてください。大人の思う通りに動いていましたか？失敗はしませんでしたか？子どもは好奇心旺盛で、後先考えずに動いたり、大人が「危ない」「汚い」と思えることをやったり、そういう中で探究心を満たし五感を刺激させて心と体を成長させています。特に3歳以下の乳幼児期は欲求を抑える脳の働きが未熟なので、その特徴が顕著です。

お父さんはお母さんより規範意識が強いので、大人から見ると「正しくない」と思われる姿を見るときつい強く叱責しがちですが、子どもは「恐怖」を覚えるだけで、正しい行動を学ぶことはできません。子ども心を思い出して、子どもの「正しくない」姿も一旦受け止めて「ダメなものダメ」と冷静に伝えましょう。また、日頃から思い切り遊び欲求を満たせる場を沢山作ってあげることがとても大事です。